

中原 4 号墳出土の玉



中原 4 号墳からは、表 1・図 1 で示すとおり各種玉が出土している。ここでは石製を中心とした丸玉・白玉及びガラス小玉の組成の特徴を紹介し、その意義を検討する。

表 1 中原 4 号墳出土の玉

器種	材質	A 群	B-NE 群	B-N 群	B-S 群	計
勾玉	瑪瑙			11	1	12
管玉	碧玉		2	2	18	22
切子玉	水晶			23	1	24
	翡翠				1	1
棗玉	琥珀			2	1	3
	土	2				2
白玉	滑石				7	7
	碧玉				1	1
丸玉*	土	115				115
小玉	ガラス			30	202	232
計		117	2	68	232	419

※ 須恵器短頸壺 (645) 内から出土した 5 点を含む。

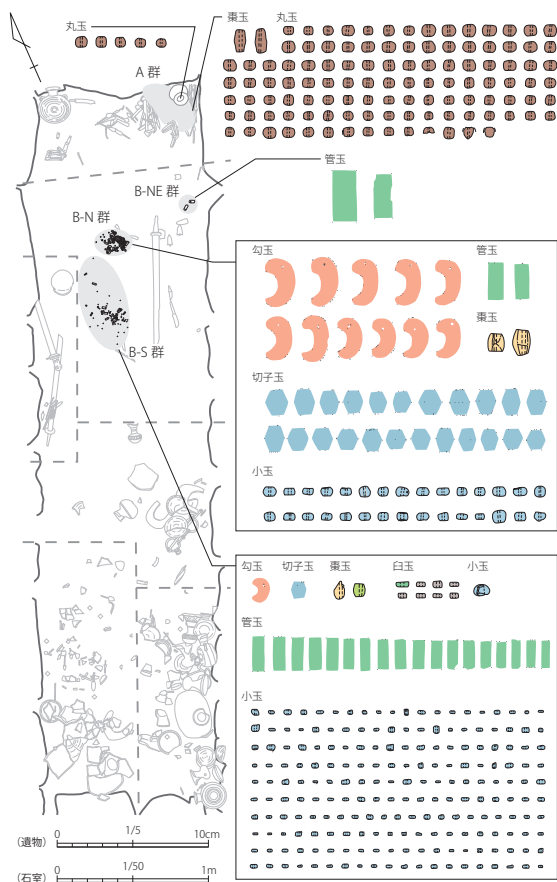


図 1 中原 4 号墳玉類出土状況図

1. 丸玉・白玉の材質組成と特徴〔図 3〕

東海地方では、三河以東に東海系の玉である蛇紋岩製丸玉が見られる。尾張以西においては、土製丸玉が主体を占める。土製丸玉は三河以東においても一定量出土しているが、三河と遠江においては 3～4 割を占めている一方で、さらに東方の駿河においては 1 割に満たない。また、土製丸玉、蛇紋岩製丸玉に次いで出土量の多いのが滑石製白玉で、伊勢地域では 1 割を超える。

中原 4 号墳では、土製丸玉が 9 割以上、滑石製白玉が 1 割弱となり、蛇紋岩製丸玉は含まれない。この組成は、尾張以西の特徴に近い。

2. ガラス製小玉の製作技法・材質法組成の特徴〔図 4〕

ガラス製小玉は、製作技法や色調からの分類が可能である。今回は、肉眼観察によって東海地方各所の資料を分類するため、巻き付け技法・鉛ガラス (Group L II B)、巻き付け技法・ナトロンタイプのソーダガラス (S I B)、連珠法・ソーダガラス (S)、分割研磨法・高アルミナタイプのカリガラス (P II)、鋳型法 (BM)、引き伸ばし技法・カリ又はソーダガラス (P / S)、引き伸ばし技法・



図 2 石室床面中央やや奥壁寄り大刀、玉類出土状況 (南より)



高アルミナタイプのソーダガラス（S II B）、とした。

東海地方では、三河以東では鋳型法（BM）の割合が、少なくとも3割、多ければ6割以上を占める。反対に、尾張以西においては、引き伸ばし技法・カリ又はソーダガラス（P / S）が主体を占める。また、数量は決して多くないが、西遠江以東で GroupS I B が一定量あるのに対し、三河以西では僅少である。

中原4号墳出土のガラス製小玉は、引き伸ばし技法（P / S）が8割以上、鋳型法（BM）は2割弱にとどまる。また、GroupS I B も出土しておらず、尾張以西の特徴に似ている。

3. 組成の特徴にみる中原4号墳出土の玉の意義

前項のとおり、中原4号墳出土の玉の組成は、東海地方の中でも尾張以西の特徴と共通している。その意義について検討する。

石製丸玉のうち蛇紋岩製の玉は、これまで生産地が発見されていない。しかし、その消費地の分布状況は明らかに偏っており、三河以東のどこかに生産地が存在していた可能性が高い。また、この時期のガラス製小玉は、

基本的には舶載品に限定されていた一方で、鋳型を用いた小玉の生産は国内でも行われていた。鋳型は畿内を中心に出土しているが、東海地方においても静岡県沼津市の中原遺跡から鋳型が出土しており、鋳型法によるガラス製小玉を生産していた可能性がある。

このように生産地と消費地の関係を仮定すると、地域性の高い玉の有無は、そのままその被葬者がその地域と密接なつながりがあるか否かと結びつくことになる。すなわち、中原4号墳の被葬者は尾張以西の勢力と密接なつながりを持っていた、と推定することができる。反対に、蛇紋岩製の丸玉を持たず、鋳型によるガラス製小玉の割合が低いことは、在地勢力との関係の希薄さを示すのであろう。

さらに、こうした地域性の高い玉がどのような時代背景の中で生産されるようになったかによって、その意味合いも大きく変わる。例えば、地域性の低い玉、広域に流通する玉の代替品なのであれば、それを入手できない、入手が難しいことの裏返しであり、広域流通品に対する権力の弱さを示すことになるが、地域の結束の象徴として生産が開始したのであれば、その有無が地域の中での力の強弱を示し得る。

このように考えると、中原4号墳の被葬者は少なくとも在地勢力というよりは、尾張以西の勢力とのつながりが強かった人物である、と推定できるのである。

<参考文献>

- 大賀 克彦 2002a「弥生・古墳時代の玉」『考古資料大観』9 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器 小学館 pp.313-320
- 大賀 克彦 2002b「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』（『清水町埋蔵文化財発掘調査報告書』V） 福井県清水町教育委員会 pp.1-20
- 田中 清美 2007「『たこ焼き型鋳型』によるガラス小玉の生産」『研究紀要』第6号 大阪歴史博物館 pp.1-24
- 田村 朋美 2015「引き伸ばし法によるガラス小玉の系譜と伝播」『物質文化』第95集 pp.19-32
- 戸根 比呂子 2008「『東海系』の玉の流通」『玉文化』第5号 日本玉文化研究会 pp.45-64

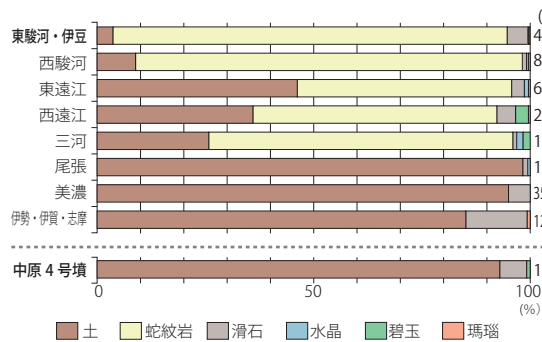


図3 丸玉・白玉の地域別材質組成

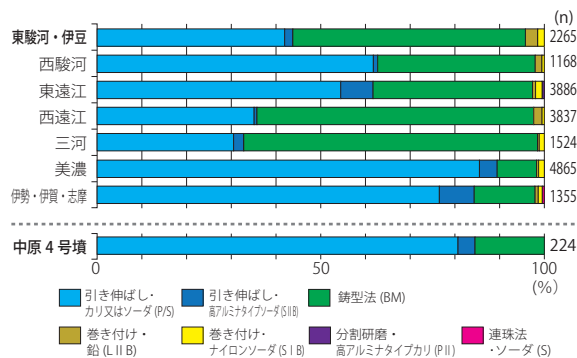


図4 ガラス製小玉の地域別材質組成